

繁藤月報

〒789-0583

高知県香美市土佐山田町平山 1748

天理教繁藤大教会

TEL 0887-57-9207 / FAX 0887-57-9246

「令和の米騒動」と天理教

シリーズ「かしまの・かりもの理」を深く掘る

vol.4

◆ ついに「令和の米騒動」が繁藤に

「会長さん、もう明日御供するお米がありません」

先月のある日の朝づとめ後の一コマだ。驚くでもなく、湧き上がったのは「ついにきたか…」という感情だった。昨年、教会で収穫したお米が底をついたのである。ふと、4年前初めて米作りに挑む際に、近所のお百姓さんに言われた一言を思い出す。

「言うとかけど、米作るよりも

買ったほうがよっぽどマシやで」

いざ米作りを始めると、その言葉がひしひしと身に沁みた。肥料代に農薬代、稲苗の費用、高価な農機具など出費が思いのほか大きい。しかもウクライナ戦争や物価高騰により、かさむコストはどんどん膨らむ。また肉体労働に加え、自然が相手だけに、一年かけ苦労して育てた稲が、台風や害獣によって台無しになることも往々にしてある。とてもじゃないが人件費なんか考えられない。繁藤大教会は自家消費するのが目的なのでまだマシンだが、これではとても商売など成り立たないと心底思った。そりや農業の担い手が不足して、耕作放棄地が増えるわけだ。



◆ 安いお米を買うことができるか

一転、買い手に立場が変わると、たちまち心は早変わりする。目下、いかに安く買うことができるかという問題だ。早速、必死になつて安くお米を卸してくれる方を親戚知人にあたつた。結果は惨敗。頭では分かっていたが、ようやく米騒動を我が事として痛感した。自分だけじゃない、みんな困っているのだ。

そんな心境の中、あらためて米騒動の一連の報道を見聞きすると、ふつつつ憤りを感じている自分がいた。首相が、大臣が、農林水産省が、農協が…。

…いやちよつと落ち着こう。

お道を信仰する者として、困りごとに直面したときにこそ、天理の教えに照らして本質に向き合うべきでないか。そつと、テレビやスマホのスイッチをOFFにして、「心の治め方」を思案してみた。

◆ 米はなくても水はあるやろう

真つ先に頭に浮かぶのは、論達第四号にも引用されている有名な逸話である。今回はあえて教祖伝ではなく「私の教祖」（中山慶一著）から引用したい。「貧に落ちきれ」との親神様の思召のままに、教祖と長男・秀司様、末娘・こかん様の家族三人で貧のどん底を通られていた頃である。

炊事としようとする、こかんが、食膳を整える何物もない日々が続く悲しさは、愚痴ともつかず訴えともつかず、つい、「お母様、又今日も炊くお米が御座いません」と淋しそうに言うと、

「こかんや、米はなくても水はあるやろう」

「世上世界にはなあ、枕元に食べ物を山程積んでも食べるに食べられず、水も喉のどを越さんと言うて苦しんでいる人があるのや。その事を思えば、わし等は結構や、水と飲めばおいしい水の味がする。神様が結構にお与え下されてある。喜ばして貰もらわにゃいかなで」と優しくお諭しになっている。

(中略)

秀司が(柴や青物の)売り荷を担いで歩くのは、勿論一家の生計を支える為ではあったが、決して利益を求めて汲きゅうきゅう々「※1」としていただけないから、売り値は誰よりも安く、又困っている人には価あたいを取らずに呉くれて了しまうという風であったから、自然大人の世界にも人気があった。紋付もんつきさん(秀司)の通るのを待って買うという様になって来た。利を求めたのではないと言っても、一日の売り上げが夕餉ゆうげの米代になる程にも達した時は、さすがに心も軽く早速米に代えて、帰りを待つ教祖や妹に、温かい御飯を上げる事の出来る喜びに、いそいそとして家路を急ぐのであった。

斯かよう様にしてやっこの思いで手に入れて帰ったお米でも、丁度ちやうどその折、門戸もんこに物をう人でもあれば、教祖は何の惜おし気もなく施ほじして了しまわるのであった。そして、

「御苦労やったなあ。さぞ疲れたやろう。けれども、お陰であの人に喜んで貰もらう事が出来た。結構やったなあ」

「どれどれ、それでは私もお仕事をさして頂たまこう」

と仰おほせになって、いそいそとして糸紡ぎの夜業よなべとお始めになるのであった。

(私の教祖 著・中山慶一)

この逸話において、私たちに教祖が伝えたかった本質こそ、まさに「かしもの・かりものの教え」であると私は考える。

【※1 汲々】小事に心をとらわれて、あくせくするさま。

◆「あるのにな」と「ないのにある」

教祖の逸話をふまえ、あらためて前半部分を読み返してみると、我ながら自分勝手なものだ。教祖のご在世当時と比べ、現代の私たちが置かれている環境は段違いに豊かになっている。しかし、

お米の作り手の立場からは、ないものねだり。

お米の買い手の立場からも、ないものねだり。

つい「ないもの、足りないもの」ばかりに目を向けてしまいがちなのは、私だけではないだろう。その根底には「自分がお米を作っている」、「自分さえよければ」という「自分(我)」が先に立ってしまったている人間の性さががあるのではないか。そして、そんな利己的な態度から生まれる憤りを、相反する立場でぶつけ合っても、心が一つに折り合うことは決してないはずだ。そんなときこそ心を静め、「かしもの・かりものの教え」の視点で物事に向き合ってみよう。恵みの雨を田んぼに引いてくること。稲の茎が分けつ【※2】すること。根が大地に張り、天に向かって成長し、稲穂がたわわに実る。火水風をはじめすべて十全の御守護のおかげがあつてのことである。この世は神の身体であり、親神様の懐に抱かれて我々は生きている。

そして、そんな自然と全く同じ理ことわりで、人間の身体が絶え間なく機能している。食べたお米が消化され、栄養となり、体温を保つもととなる。身体は神様からの借り物であり、我々は目に見えない



い御守護によつて生かされている。

かしもの・かりものの教えに身を委ねたとき、「ないもの」ではなく、「ない中にある」ことに意識が目覚め、全く違う世界が見えてくるはずだ。目に見えない親神様のお働き、偉大なる恩恵に対し、心に明るさと感謝が自然と沸き起こる。教祖は、

「まゝ食べるのも月日やで。

もの云うのも月日やで。

これわからんがざんねん〜」



とおっしゃった。私のように「ないもの」にとらわれて、目の前の事柄に一喜一憂し、大切な本質を見失つてはいけけない。これがこのたび、皆さんと確認し合いたかったことである。決して、米騒動の問題を軽視するわけでもないし、単に我慢すればいい、諦めたらいいということではない。繰り返しになるが、心から離してはならない本質や根幹こそ、まさに教えの台といわれる「かしのもの・かりもの」である。

さて、今月から梅雨の時期に入る。十月の秋季大祭で、皆さんに美味しい新米を振る舞えるように、感謝とともに今日も田んぼの水の様子を見に行こう。

【※2 分けつ】 稲苗の根元から次々と新しい茎くきが分かれ出ること

立教一八八八年六月一日

天理教繁藤大教会長

坂本輝男

【神殿講話】

(6月) 田村辰久

【しげとう time おかえり講話】

(6月) 未定

【教会長神殿当番】

(6月) 関守・高昭
(6月) 桂濱・細島

【詰所教養掛】

(6月) 立花真一郎
女性 田村睦美
(9月) 佐藤成彦
女性 宮田まゆみ

【詰所事務当番】

(6月) 黒河明大
28・29日 小長史慶
(7月) 村上修慶
白石明光

【ひのきしん】

○本部食堂ひのきしん
10月1日〜15日(本山)
○婦人会詰所ひのきしん
6月25日〜26日(城下2名)

【婦人会・少年会・青年会費納入のお願い】

令和7年度の各会費の納入を、左記の通りお願い致します。

- ・ 婦人会 一名称 六〇〇〇円
- ・ 少年会 一名称 六〇〇〇円
- ・ 青年会 一名称 六〇〇〇円

たちばな、おぢばへ。
 たちばな会 おぢば帰り団参
 2025 6.29 SUN

【主教百八十八年 五月 祭文】

これの繁藤大教会の神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に天理教繁藤大教会長坂本輝男慎んで申し上げ

天地抱き合わせの親神様の懐に、妙なる御守護と深く大きい親心にお守り頂き、日々結構に身上を使わせて頂いて居ります幸せは、誠に勿体ない限りで御座います。お陰により私共一同日々結構にお連れ通り頂き、心勇んで時旬の御用に励ませて頂いておりますが、わけても今日の吉日は御教元の元一日の理を受けて、当教会にお許しいただいておられます月々の御祭日に当たりますので、只今からお役に預かるおつとめ奉仕者のよふぼく一同、一手一つに心を合わせ、座りづとめてをどりをつとめ、五月の月次祭を執り行わせて頂きます。御前には、今日を楽しみに寄り集った道の子達が、つとめに身も心も尽くして、一心にお縫りする一同の状をお受取り下さいまして、親神様にもお勇み下さり、揃って陽気世界への歩みを前進させて頂けますようお願い申し上げます。私共教会長を始め、よふぼく一同は、只今の教祖年祭活動仕上げの旬にあたり、まもなく実施される第四回ようぼく一斉活動日に、また来月の「たちばな会おぢば帰り団参」に向け、一人でも多くの方に旬の声を掛けさせて頂き、御存命の教祖にお喜び頂けるよう、仕切り力をもつて心定め達成を目指して努め切る決意で御座います。

何卒この上共によろずたすけの上自由の御守護を賜り、混乱を深める世相の中で苦しみ悩む人々をお救い頂き、一日も早く我が身可愛い人間思案のほこりの心が払い澄まされて、一列兄弟姉妹の和のもと互い扶け合う陽気づくめの世の状をお見せ頂きますよう御守護の程を一同と共に慎んで御願い申し上げます。

《繁藤大教会立教百八十八年五月 祭典役割》

祭主	大教会長	田村聡佐
指図方	為田紀久男	伊藤正福
扨者	田村久徳	立花真一郎
扨者	空閑一将	佐々木恵
賛者	田村聡佐	村上由高
賛者	空閑慶吾	空閑慶吾
男	座りづとめ	てをどり前半
	大教会長	佐藤成彦
	前大教会長	空閑一教
	田村辰久	宮田教一
	大教会長夫人	宮田まゆみ
	前会長夫人	佐藤文代
女	黒石伸子	武市まち子
	佐藤栄治	藤田一憲
地方	為田基紀	川田節夫
	安部道郎	宇山基紀
笛	村上英士	佐々木恵
チャンポン	為田紀久男	佐藤節幸
拍子木	藤田憲明	空閑一将
太鼓	田村久徳	立花真一郎
すりがね	坂本久徳	土居道久
小鼓	宮田孝道	村上由高
琴	佐藤順子	田村睦美
三味線	藤田洋美	空閑都
胡弓	村上美栄子	為田賢子
神殿講話	大教会長	黒石伸子
		前席
		黒石伸子

【「たちばな会おぢば帰り団参」について】

○6月29日(日)

10:30 本部神殿にておつとめ

11:30 東講堂にておかえり講話

弦楽演奏

12:40 昼食弁当配布

○帰参御供(29日の昼食弁当含む)

大人・千円(中学生以上)

小人・五百円(小学生以下)

※3回目の帰参予定報告書と、団参についての詳細資料を同封しております。

帰参予定報告書は受け入りの準備の都合上、

6月20日迄に大教会へ必ず提出して下さい。

帰参報告は帰参単位でお願いします。重複のないようご注意ください。

又、大教会への報告は帰参予定の報告でありますので、詰所での宿泊食事の申し込みは、直接詰所へご連絡頂きますようお願い致します。

○団参チラシ(繁藤版)

繁藤独自の団参チラシを作成しました。

裏面は各教会の計画等が印刷可能です。お

声かけにご活用下さい。チラシが必要な方は枚数とともに大教会に申し出て下さい。

【婦人会】

◇ひながた勉強会(繁藤支部)

去る、5月25日、詰所にて「ひながた勉強会」を開催いたしました。

当日は、受講してくださいくださった方々と共に、ひながたを身近に感じ、心におさめることができました。ありがとうございました。

次回は、11月25日(火)に予定しております。ぜひお誘い合わせの上、たくさんの方に受講いただけますようお願いいたします。



婦人会ひながた勉強会



【少年会】

○こどもおぢばがえり申込み方法について

3月26日の団長会でインターネット申込みに必要な「申込キー」が、全教会分配布されました。まず責任者登録をして下さい。(6月20日10:00より登録可能になります)。7月1日10:00より、こどもおぢばがえりオフィシャルサイトの申込みフォームより申込みが出来ます。申込みが出来るのは、帰参予定人数・カレー食数になります。カレー食数には、1日の上限がありますので、上限に達した場合は申込みが出来なくなります。準備の都合上、7月20日までに一度申込みをして下さい。不明な点は団長までお問い合わせ下さい。

【初席】

城下 藤田正善 (3月)
方城 北原龍之介 (3月)
本訓 森井聡之 (4月)

【おをびや】 1 件

【おまもり】 5 件



城下分教会 創立130周年記念祭

仕切り月 (5月)

- 3日 胆 澤 分教会
- 3日 児島郷 分教会
- 3日 地ノ島 分教会
- 4日 紋 膽 分教会
- 4日 日之富 分教会
- 4日 生 安 分教会
- 6日 添 田 分教会
- 10日 種 崎 分教会
- 10日 大豊田 分教会
- 12日 種 孝 分教会



十知分教会 創立100周年記念祭



12日 田久生分教会



空心分教会 創立100周年記念祭



11日 関守分教会



18日 方城分教会



たちばな、
おちばへ。



たちばな会おちば帰り団参

2025 **6.29** sun

●おつとめ／当日10時30分より、七大教会が本部神殿に集まり、拍子木を入れての「おつとめ」をつとめさせていただきます。

団参の詳しい内容はホームページ・SNSをご確認ください

<https://tachibanakai.net>



情報は随時ホームページや SNS などで発信予定です。まずはこちらの公式 LINE をぜひご登録ください。



たちばな会おちば帰り団参実行委員会

教祖140年祭 三年千日の活動方針

明日に希望を、 今日を陽気に

～ひながたを心に、プラスワンの誠真実を～

実践目標

教会に人をお連れし、たすかる道を伝えよう
誠の理を、日々に働かそう
おさづけの取り次ぎ、チラシ配りの推奨
天理カードの登録推奨（目標 10,000人）

教えに親しみ、ひながたを心の頼りに明るく歩もう
信者の葉を毎日拝読する
ご守護に気づき、身近な人に信仰を伝えよう
お道と社会に貢献できるようほくを育てよう

ふしから芽が出るご守護をいただこう
心を定め、日々の理づくり・徳積みに励もう
「声は肥」句を外さないよう+1の声かけを
月次祭を賑やかに勤めよう（仕切り月の実施）



繁藤公式 LINE で講話やブログなどを配信しています。
ぜひご登録ならびにご紹介をお願いします。



天理教繁藤大教会
SHIGETO